

【緊急アンケート】

新型コロナウイルス対策に向けた
調査の結果について
～子ども編～

2020年5月18日

企画調整局データ解析チーム

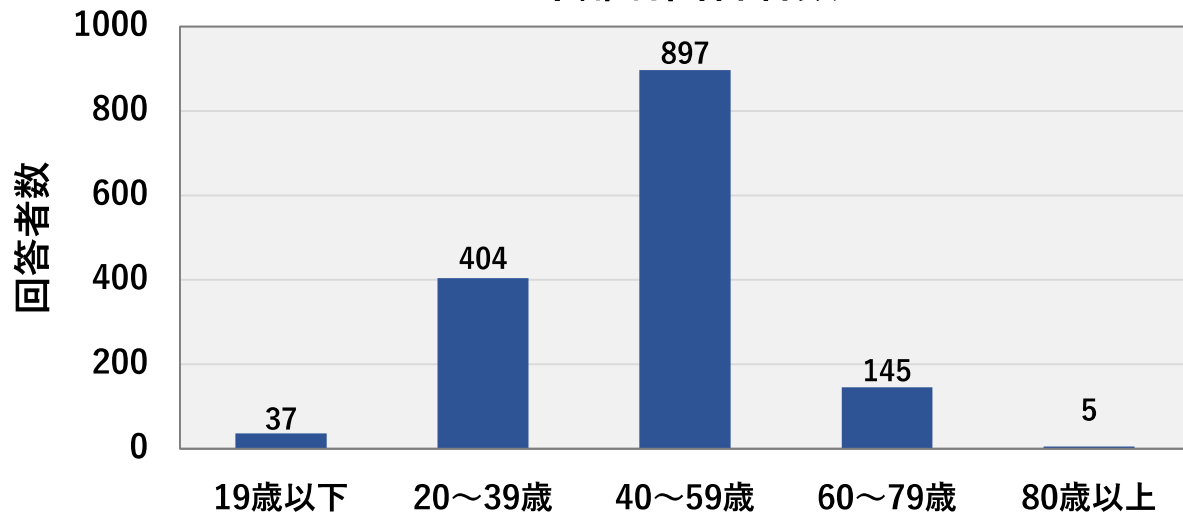
実施目的

- 新型コロナウイルスの影響により、学校の休校や保育所の特別保育実施により、多くの子どもが家で過ごさなければならない状況になっている
- このような状況の中で生じる、子どもの生活に関する心配事や、ご両親の増えた負担等をアンケートにより聴取する
- アンケート結果を集計・分析し、今後の対応に繋げていくための検討材料とする

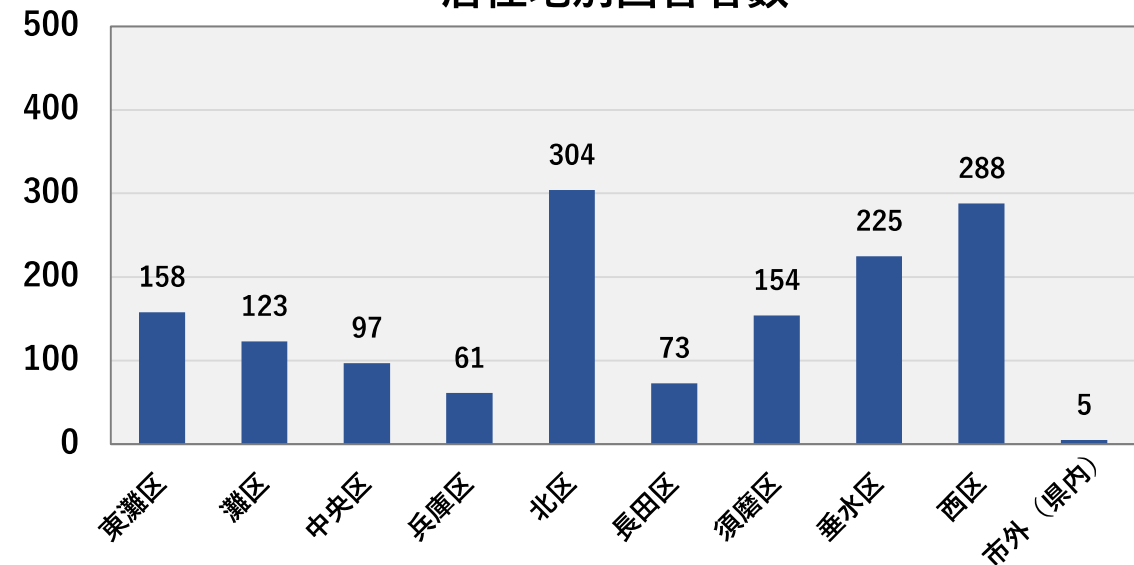
アンケート概要及び回答者数等

- 実施期間：4月27日（月）～29日（水）
- 対象者：情報共有アプリ「**KOBE ぽすと**」をインストールしている方
- 回答者数：1,488人

年齢別回答者数

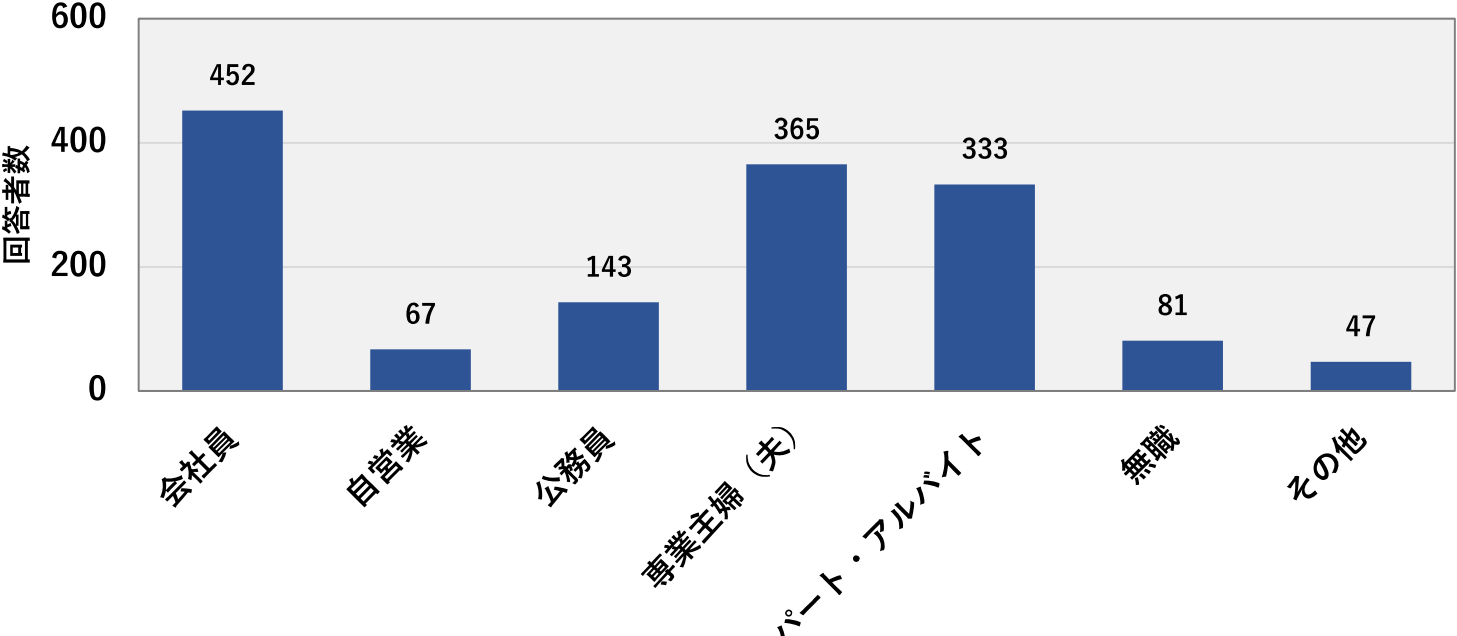


居住地別回答者数

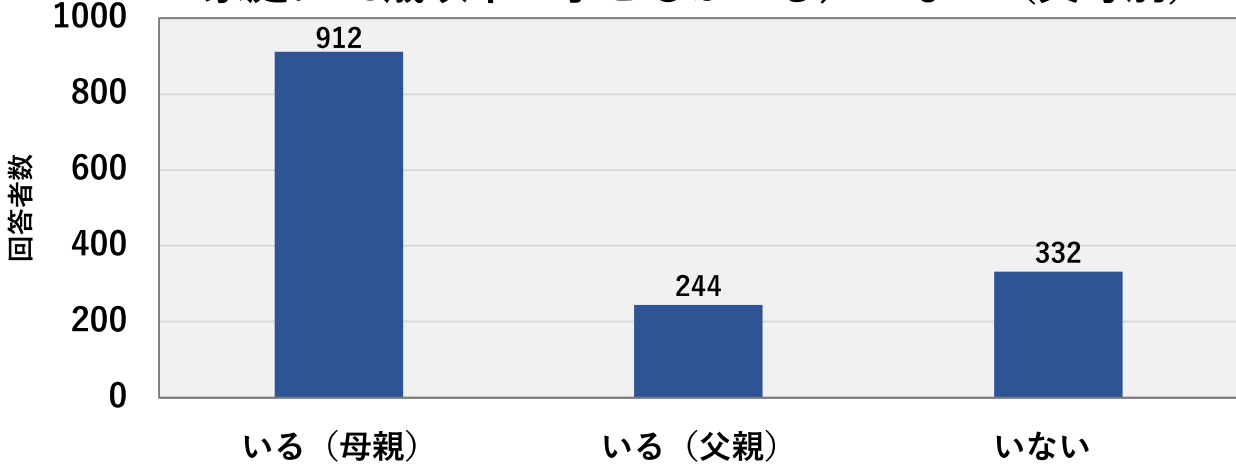


回答者の属性等

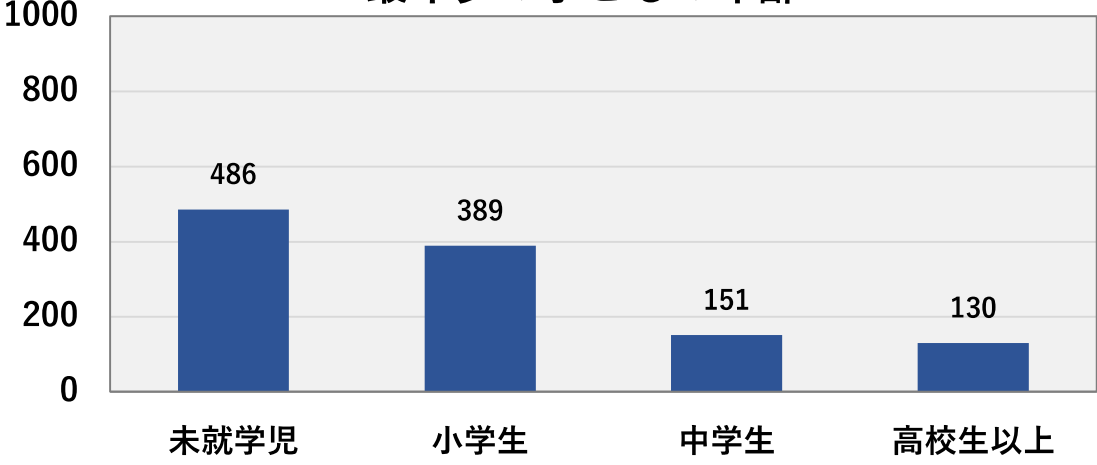
職業別回答者数



家庭に18歳以下の子どもがいる／いない（父母別）



最年少の子どもの年齢

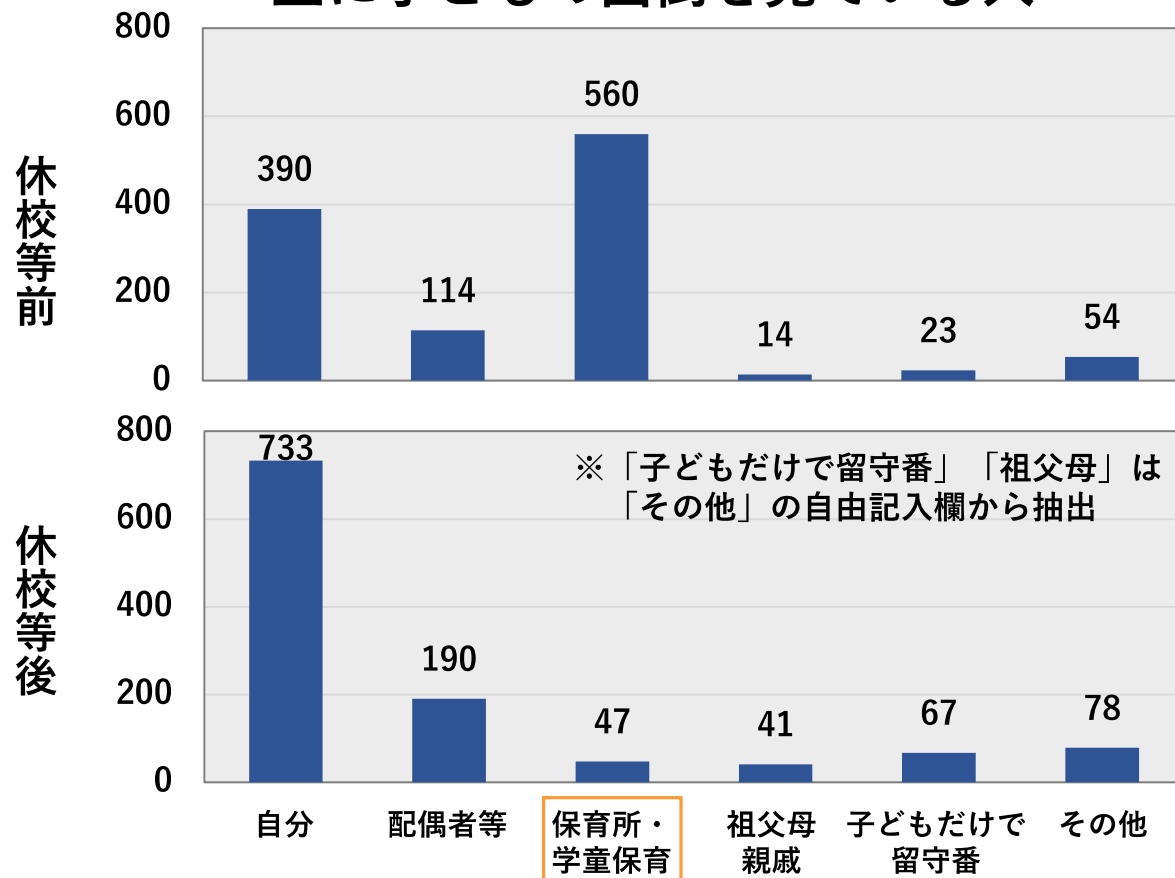


主に子どもの面倒を見ている人

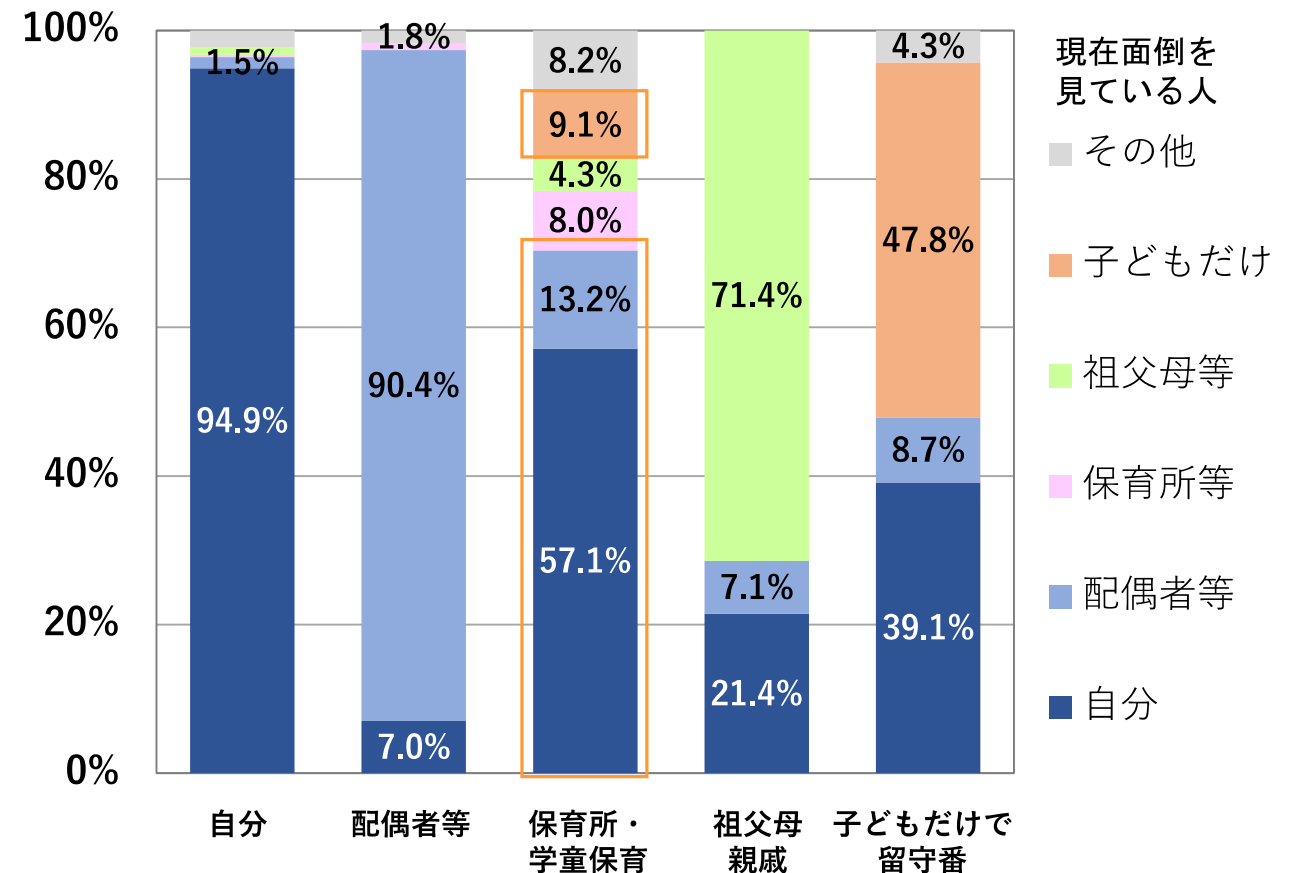
※集計対象：子どもがいる（父母）と回答した人

- 保育所・学童保育を利用していたと回答した方のうち、70%が自分または配偶者で面倒を見る一方、9%が子どもだけの留守番を余儀なくされている

主に子どもの面倒を見ている人



休校前後の子どもの面倒を見ている人



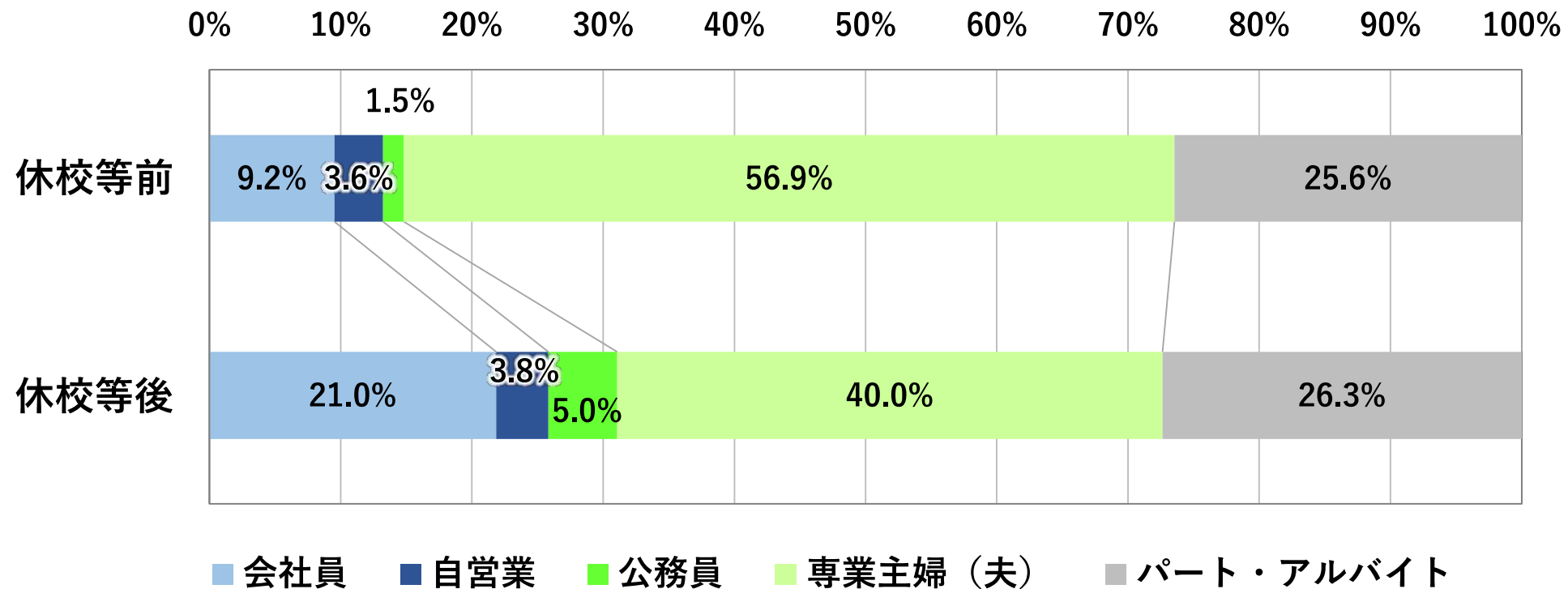
休校等が始まる前に子どもの面倒を見ていた人

主に子どもの面倒を見ている人

※集計対象：子どもがいる（父母）と回答した人

- 自分が子どもの面倒を見ていると回答した方の職業を見ると、「会社員」「公務員」の割合が休校後に増加している

自分が子どもの面倒を見ている人の職業（休校等前後）

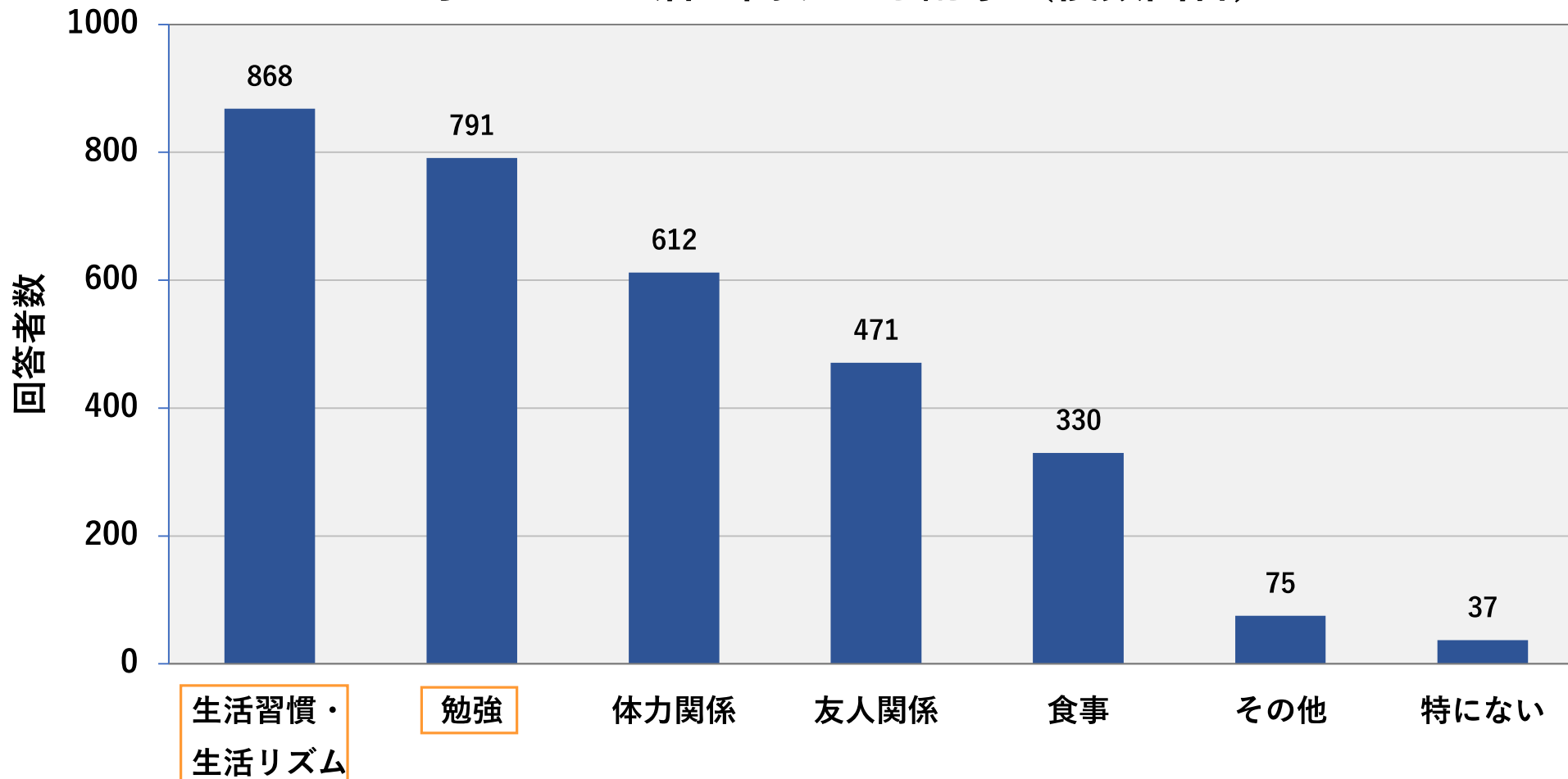


子どもの生活に関する心配事

※集計対象：子どもがいる（父母）と回答した人

- 子どもの生活に関して「生活習慣・生活リズム」を心配する回答が最も多く、次いで「勉強」を心配する回答が多い

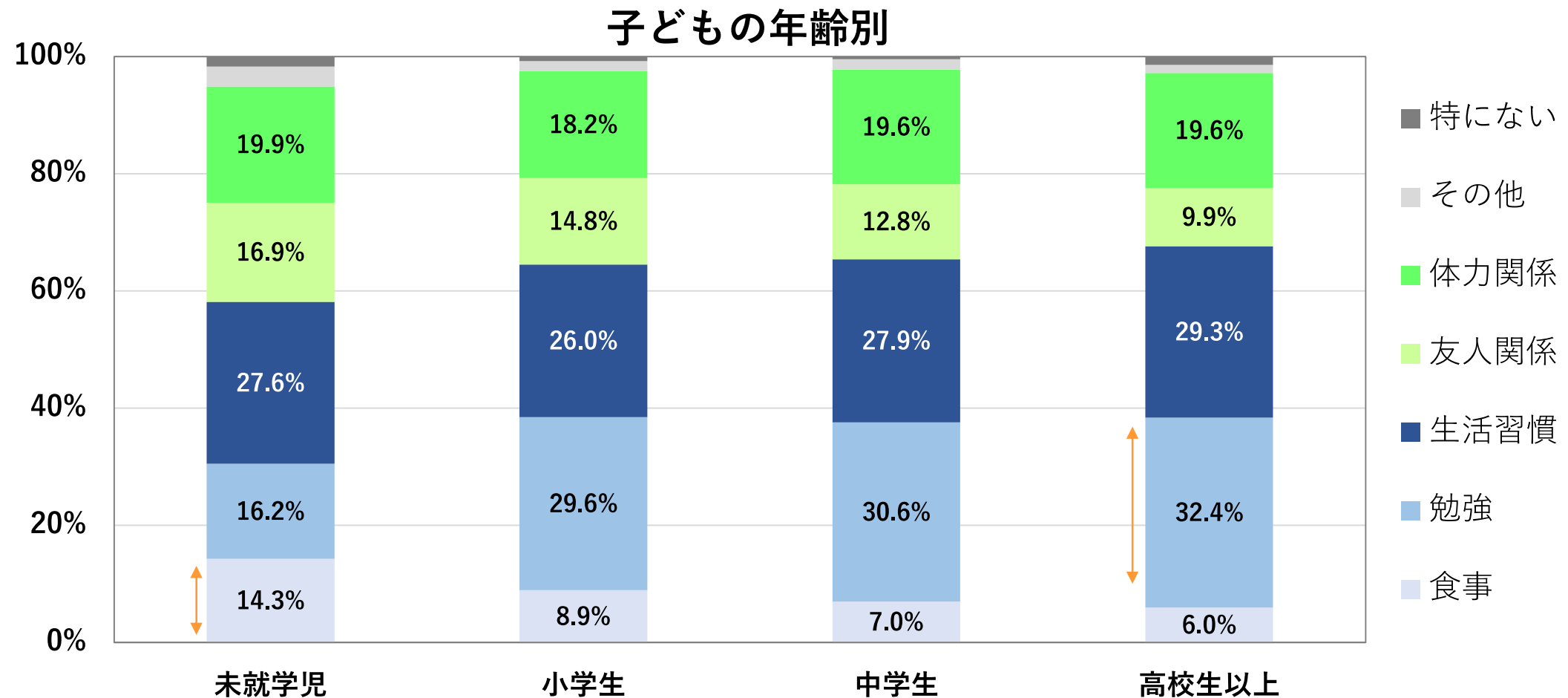
子どもの生活に関する心配事（複数回答）



子どもの生活に関する心配事

※集計対象：子どもがいる（父母）と回答した人

- 若い子どもがいる家庭ほど「食事」を心配する割合が高く、年齢が上がるにつれて「勉強」を心配する割合が高い

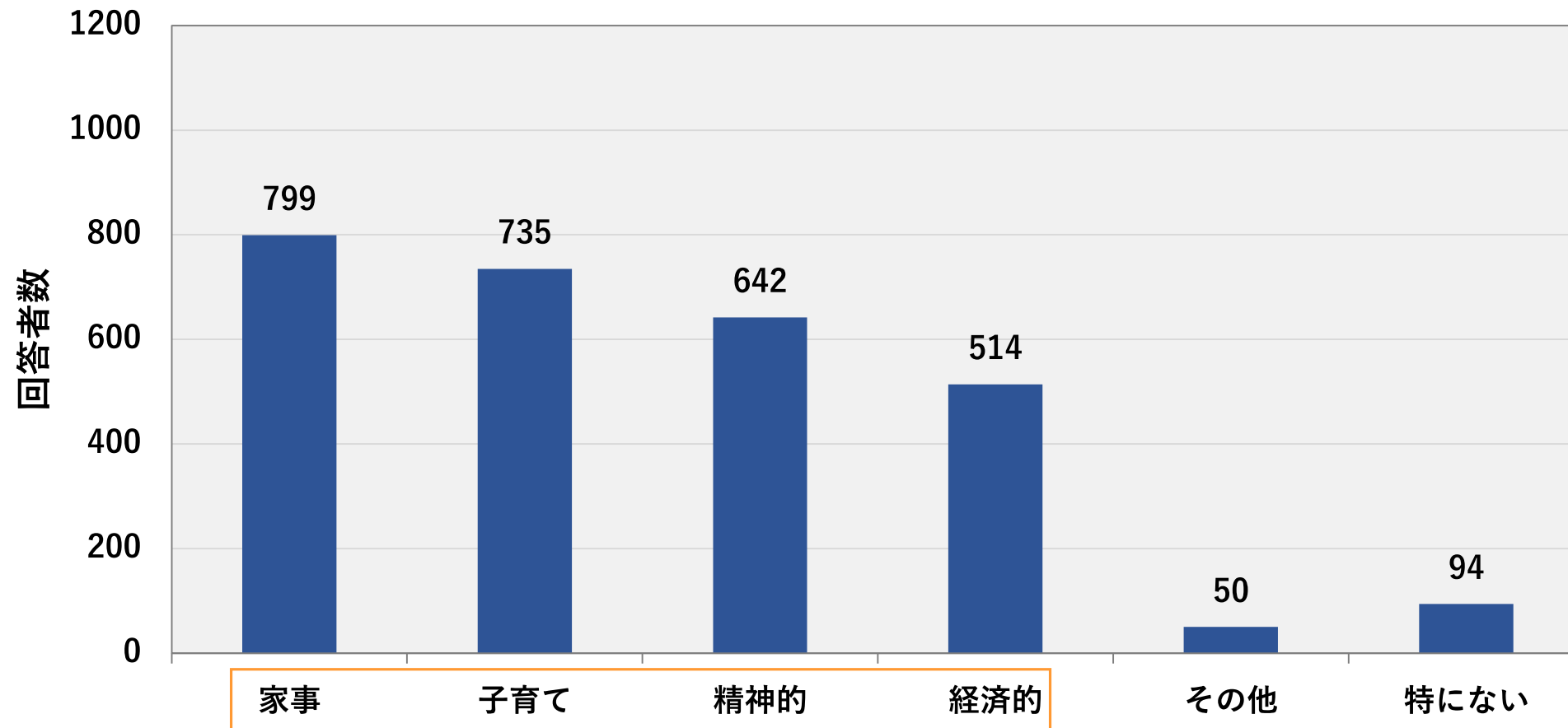


休校等の影響により増えた負担

※集計対象：子どもがいる（父母）と回答した人

- 休校等の影響により「家事」「子育て」「精神的」「経済的」な負担を感じている方が多い

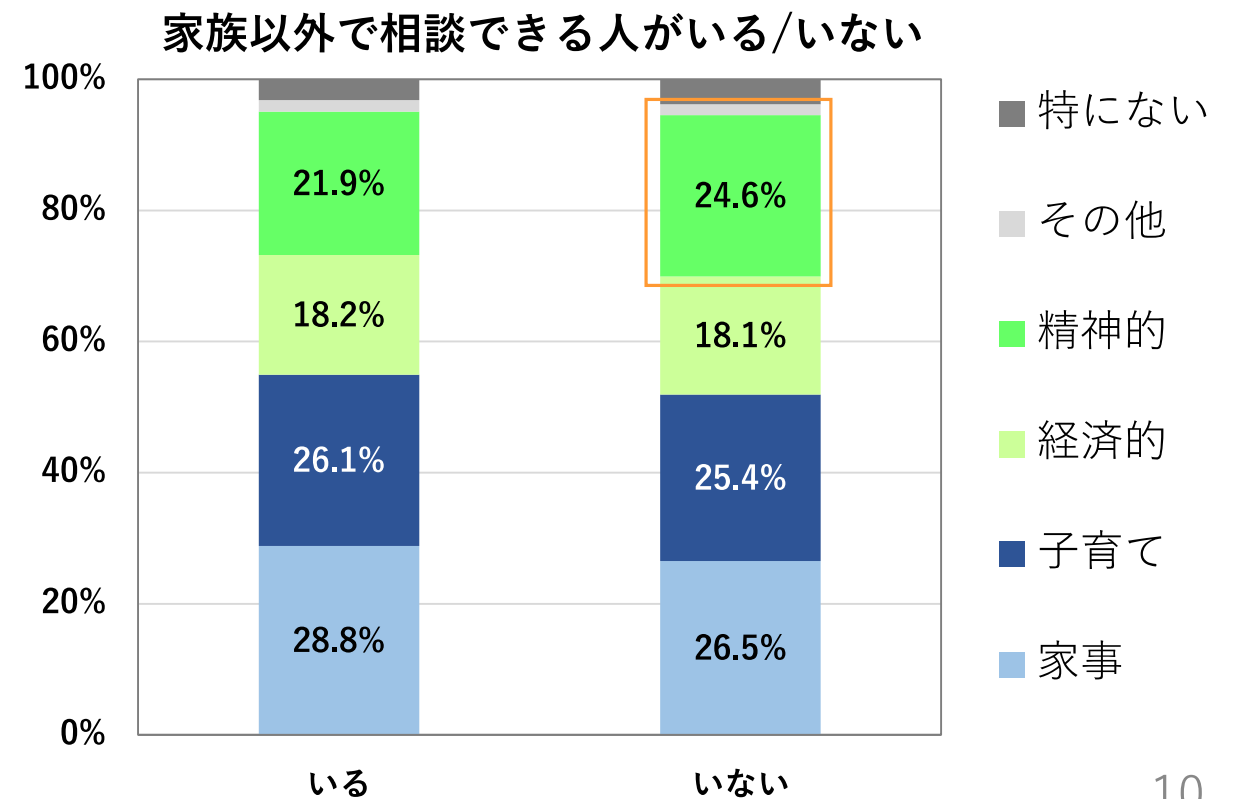
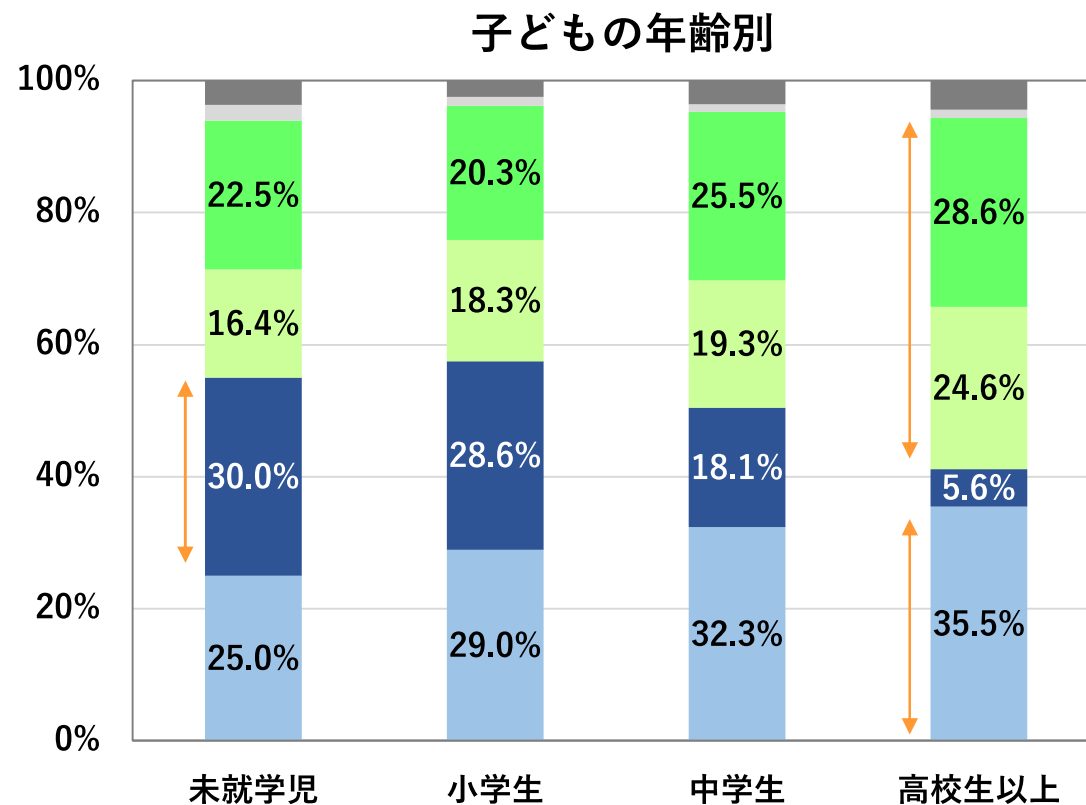
休校等の影響により増えた負担（複数回答）



休校等の影響により増えた負担

※集計対象：子どもがいる（父母）と回答した人

- 若い子どもがいる家庭ほど「子育て」の負担が増えたと回答する割合が高く、また子どもの年齢が上がるにつれて「家事」「精神的」「経済的」な負担が増えたと回答する割合が高い
- 家族以外で相談できる人が「いない」と回答した人のほうが精神的負担が増えたと回答した割合が高い

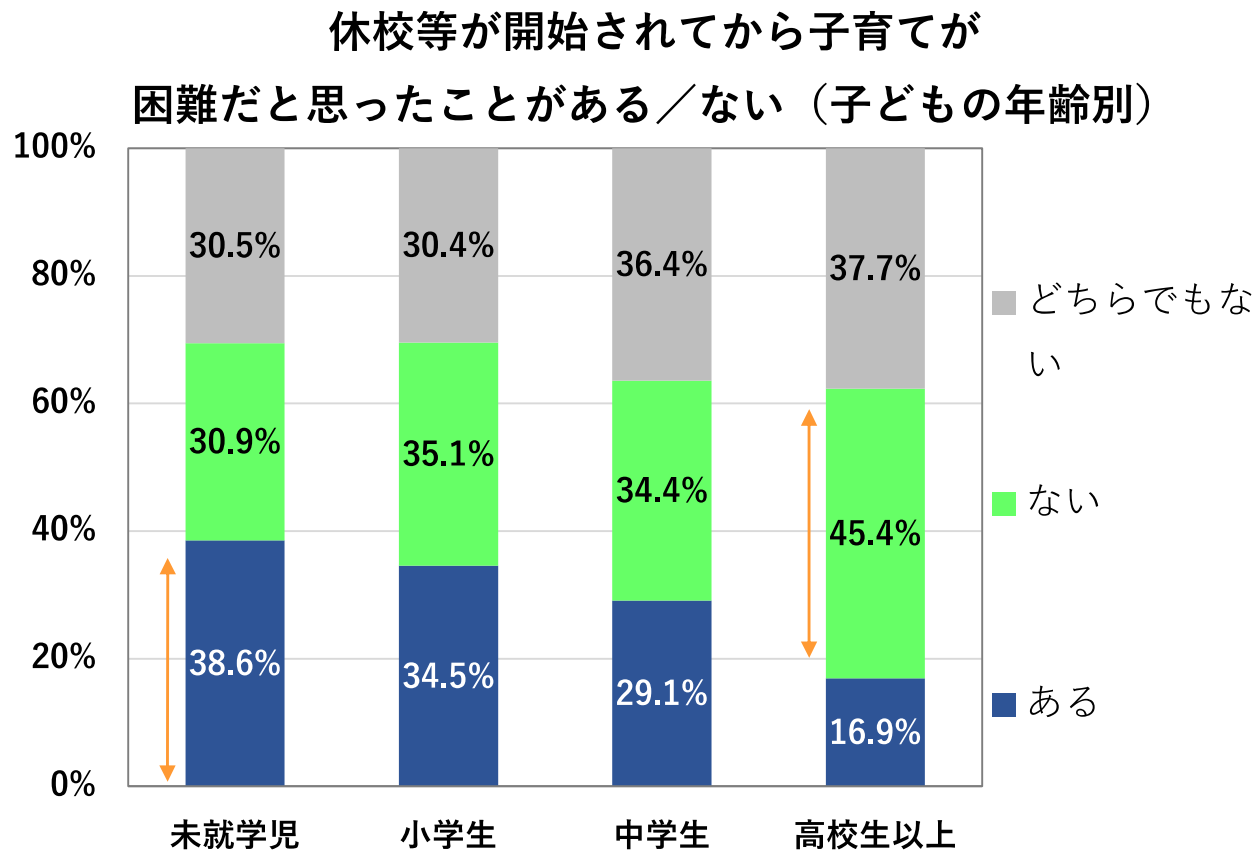


子育てについて

※集計対象：子どもがいる（父母）と回答した人

- 若い子どもがいる家庭ほど、休校等が開始されたことで子育てが困難だと思う割合が高く、子どもの年齢が上がるにつれてその割合は下がる傾向となっている

【参考】 ある：387件 ない：397件 どちらでもない：370件



困難だと思った内容（主な意見）

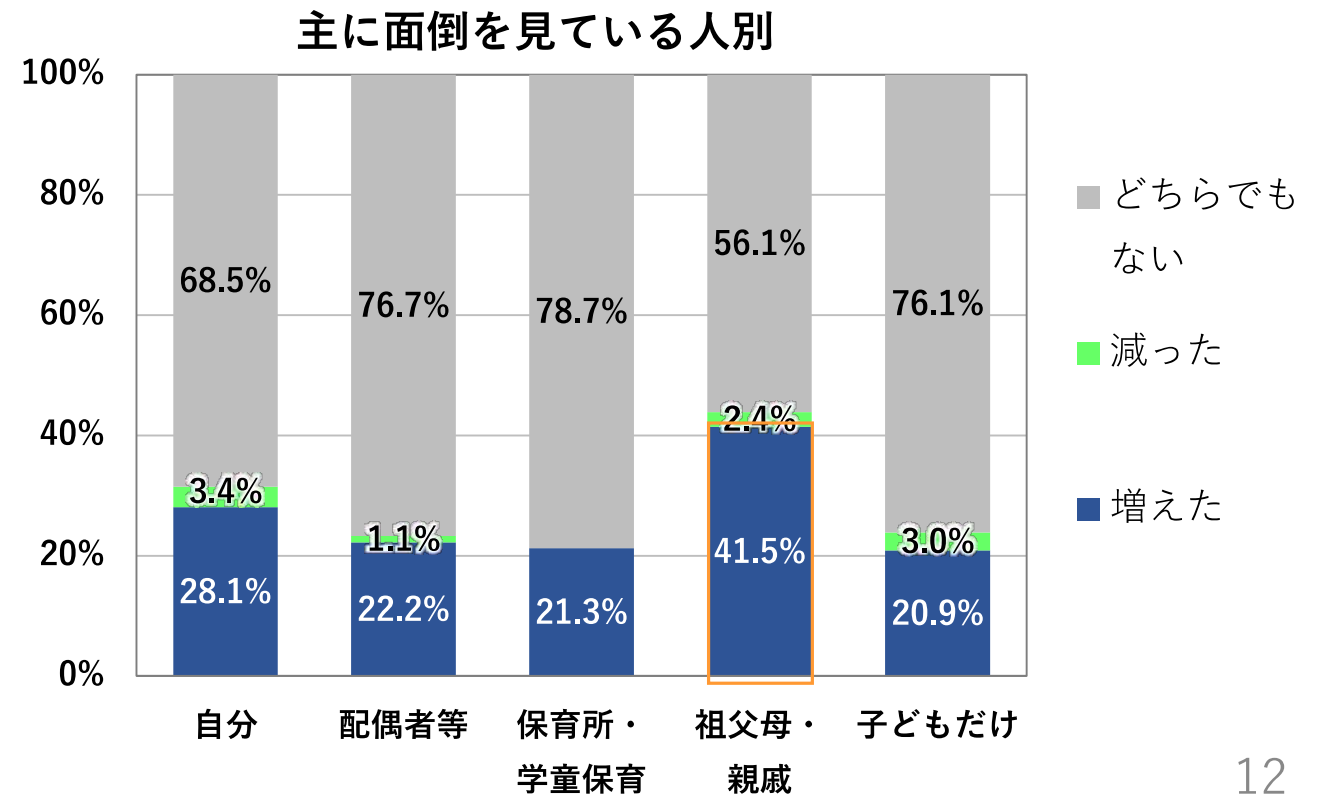
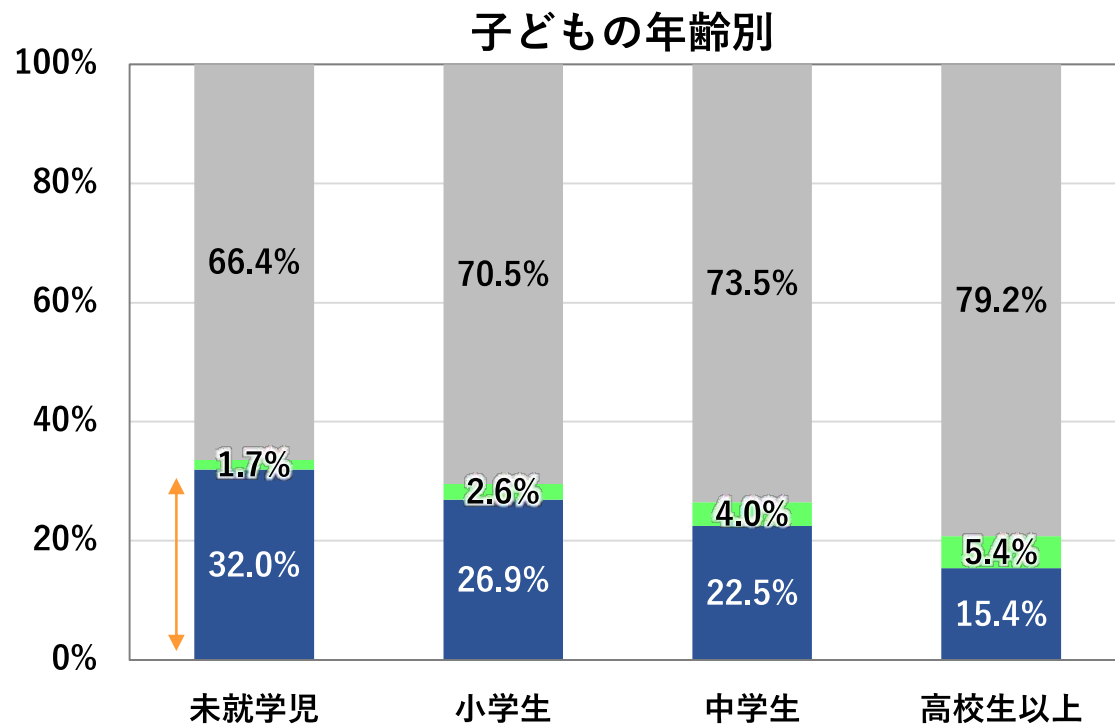
- 外出自粛に伴う親・子のストレス
 - －子どもとずっと一緒に一人の時間がない
 - －親子、兄弟の喧嘩が増えた
 - －外で自由に子どもと遊べない
- 子どもの勉強・運動
 - －勉強の教え方がわからない
 - －学力・体力の維持が困難
- 仕事や経済的な内容
 - －在宅勤務と子どもの面倒を両立できない
- 子どもの生活リズム
 - －スマホやゲームばかりしている

子どもとの喧嘩

※集計対象：子どもがいる（父母）と回答した人

- 若い子どもがいる家庭ほど親子喧嘩が増えたと回答した割合が高い
- 「祖父母・親戚」が主に子どもの面倒を見ている家庭では、子どもとの喧嘩が増えたと回答した割合が高い

【参考】 増えた：312件 減った：31件 どちらでもない：806件

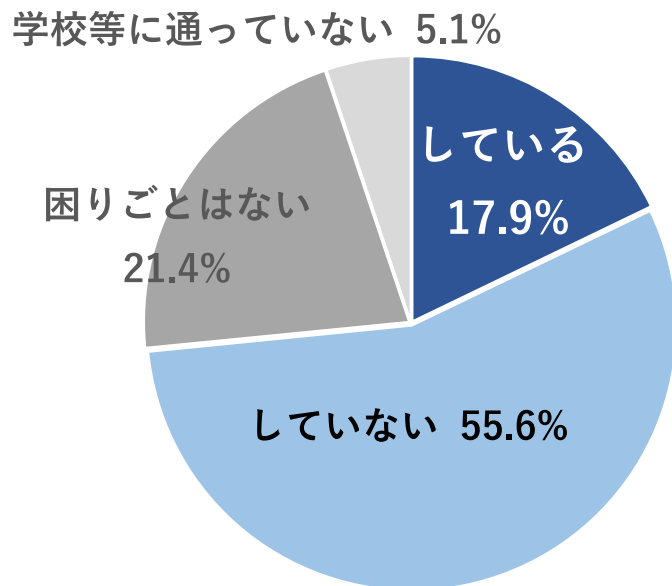


子育てに関する相談について

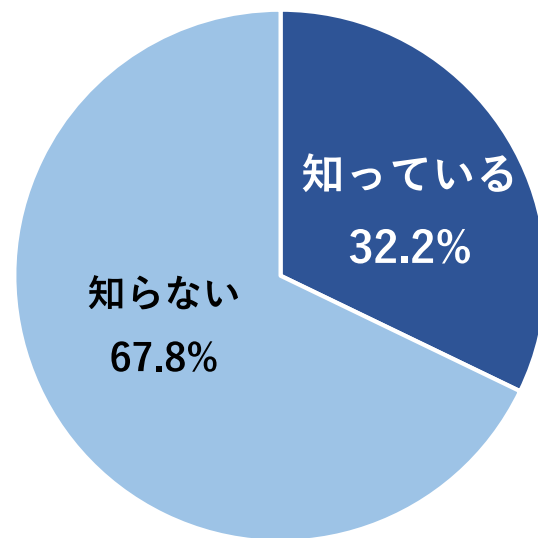
※集計対象：子どもがいる（父母）と回答した人

- 困りごとがある場合に学校や保育所へ相談している割合は18%
- 子育て相談ダイヤルの認知度は32%で、さらに家族以外で相談できる人が「いない」と回答した方の認知度（26%）のほうが低い

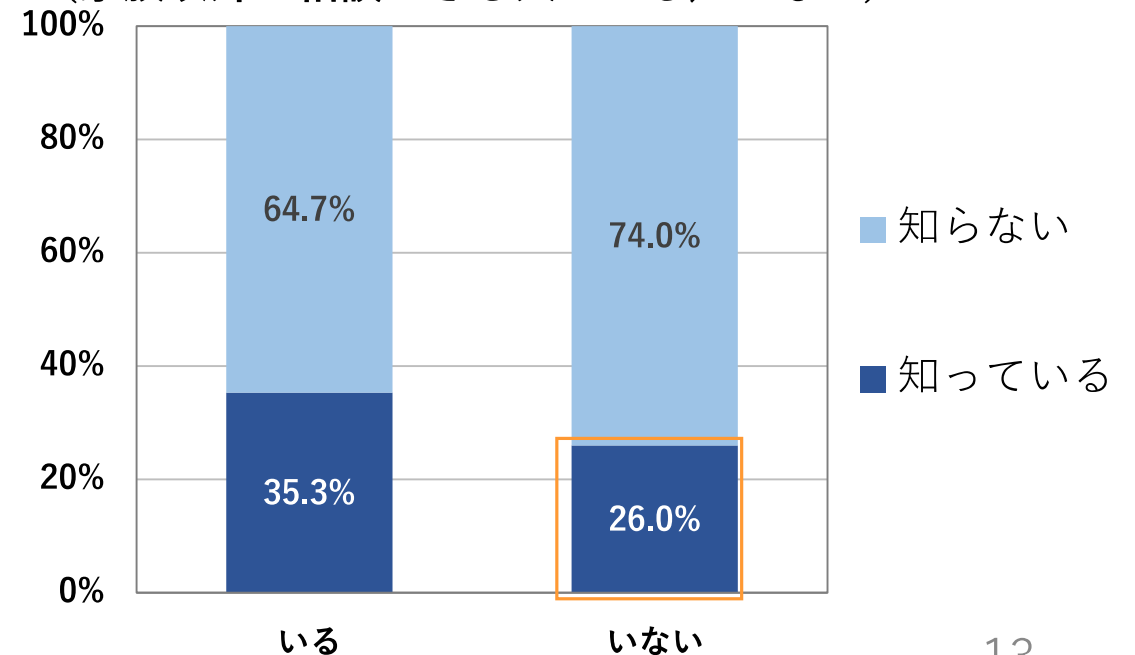
困りごとがある場合の
学校等への相談状況



子育て相談ダイヤルの認知度



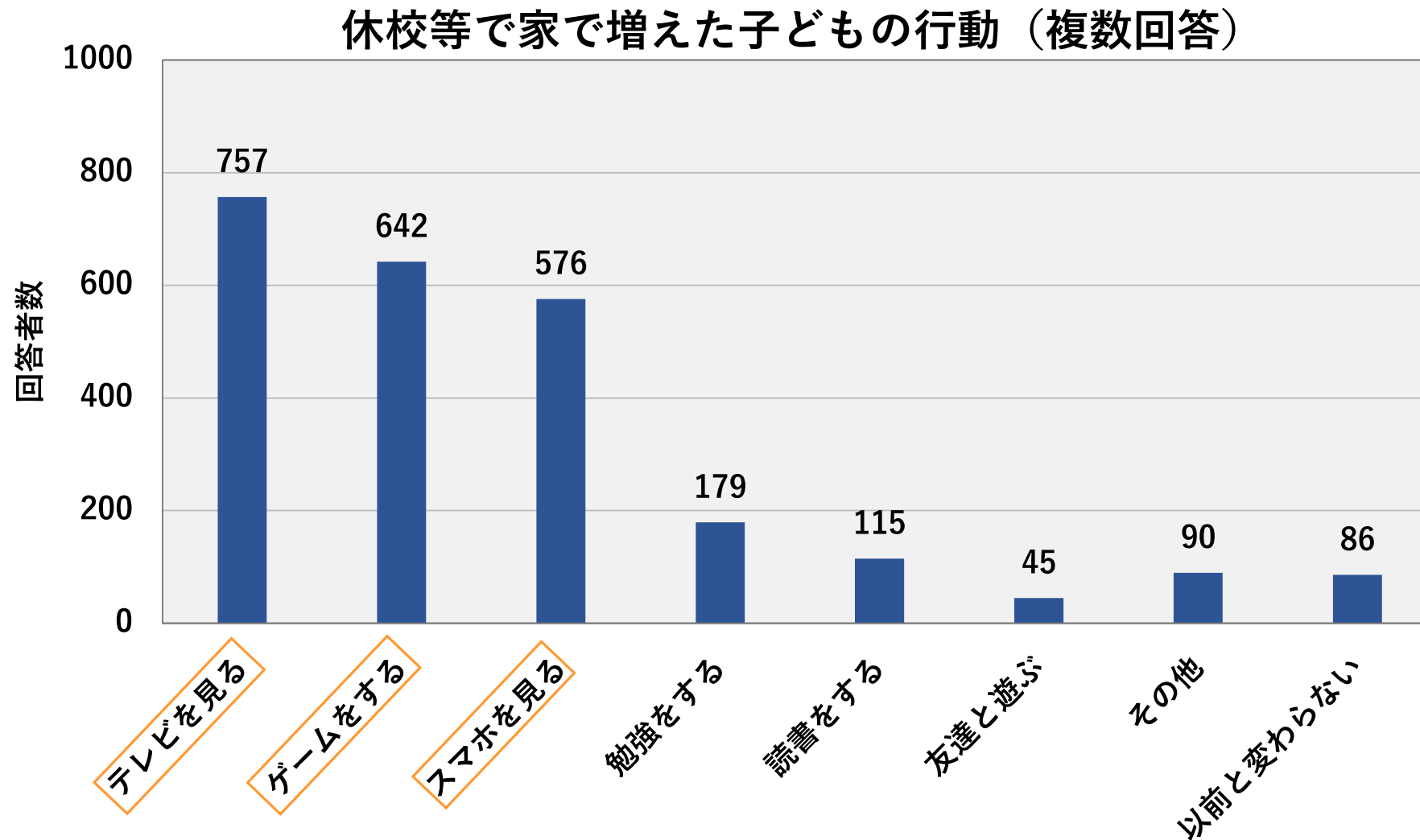
子育て相談ダイヤルの認知度
(家族以外で相談できる人がいる／いない)



家で増えた子どもの行動

※集計対象：子どもがいる（父母）と回答した人

- 休校等の影響により「テレビを見る」「ゲームをする」「スマホを見る」行動が増えたとの回答が多い

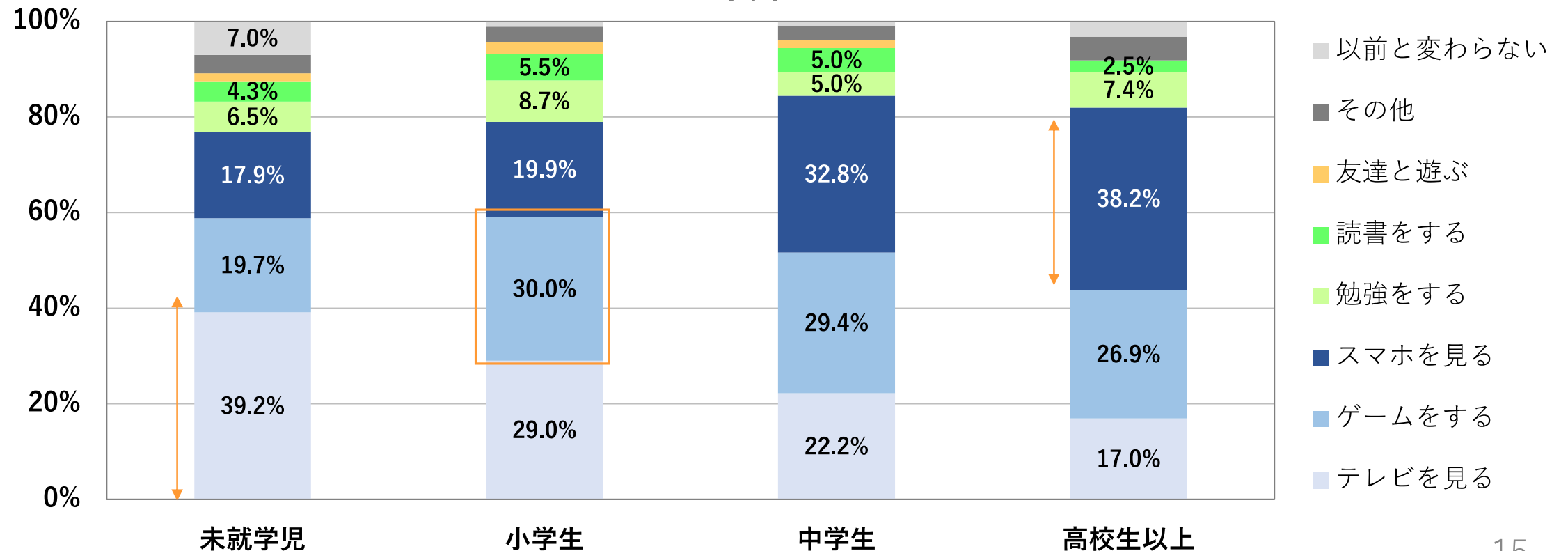


家で増えた子どもの行動

※集計対象：子どもがいる（父母）と回答した人

- 若い子どもほど「テレビ」を観て過ごす時間が増え、年齢が上がるほど「スマホ」を見て過ごす時間が増えたという回答した割合が高い
- 小学生の子どもがいる家庭で「ゲーム」の時間が増えたという回答した割合が最も高い

子どもの年齢別

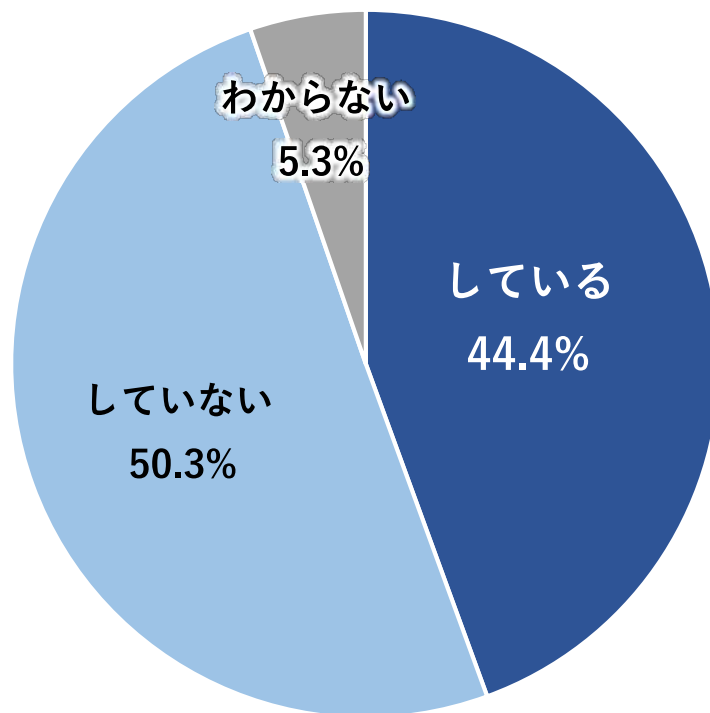


子どもの運動および勉強の状況について

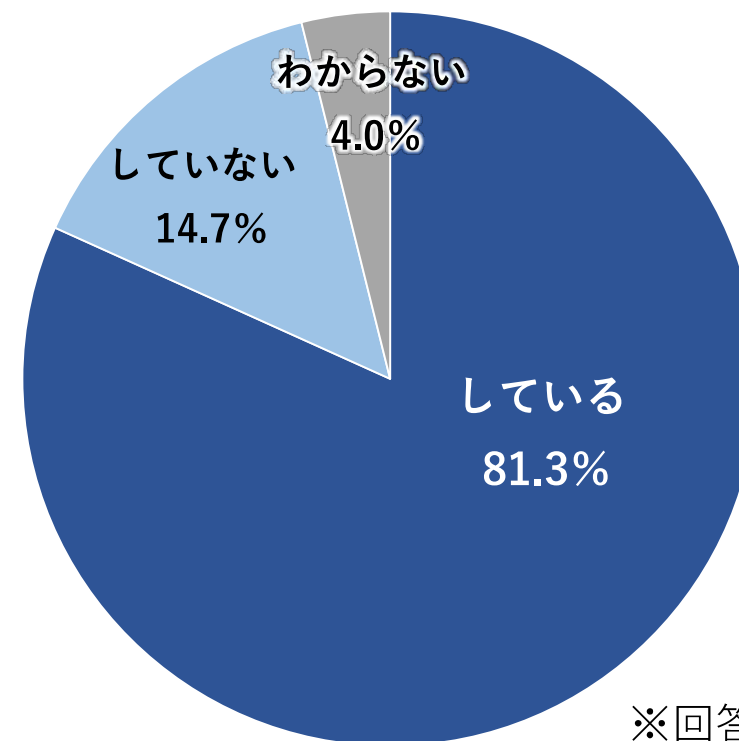
※集計対象：子どもがいる（父母）と回答した人

- 「運動していない」と回答した割合が50%を占める
- 「勉強している」と回答した割合が81%を占める一方、15%（約8人に1人）は「勉強していない」と回答している

子どもの運動の状況



子どもの家庭での勉強の状況

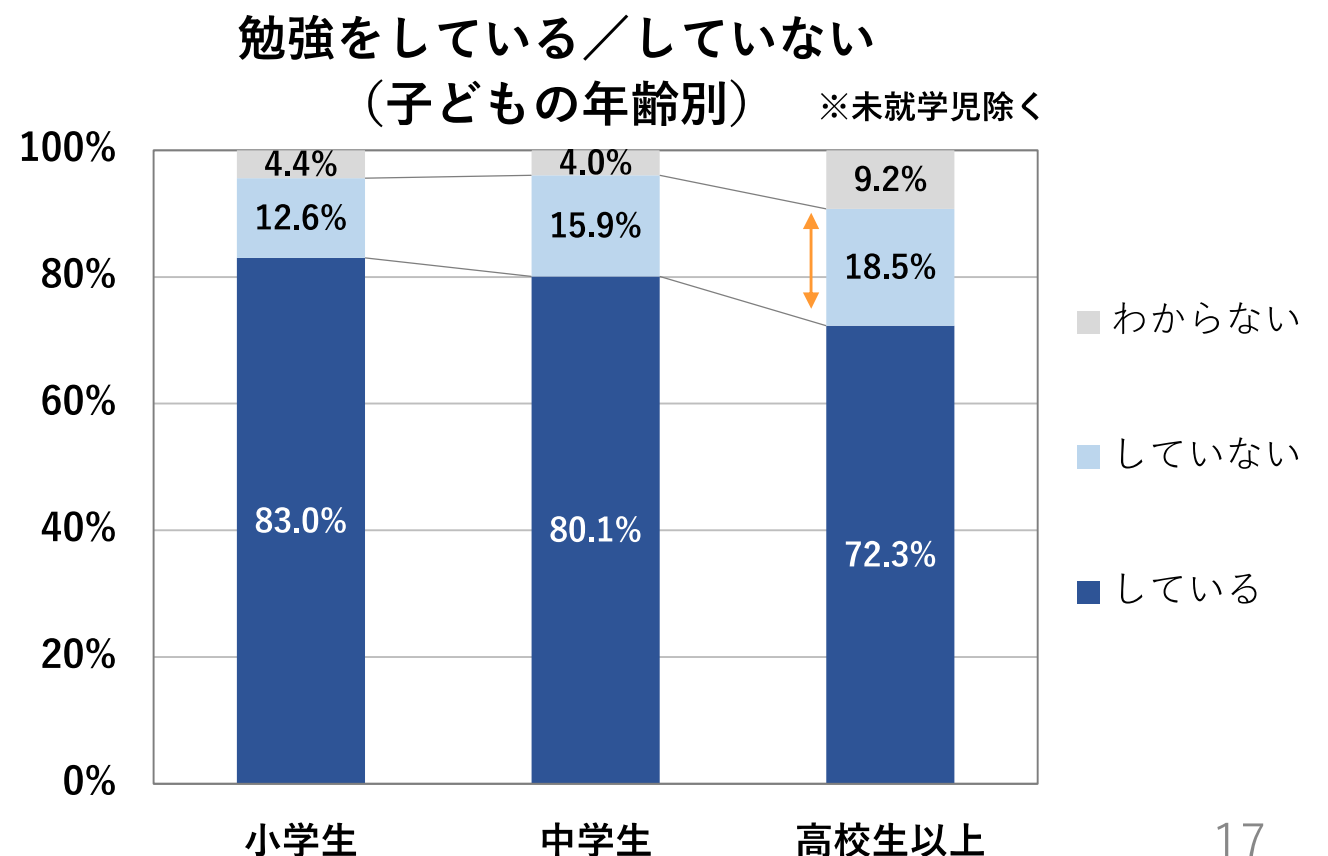
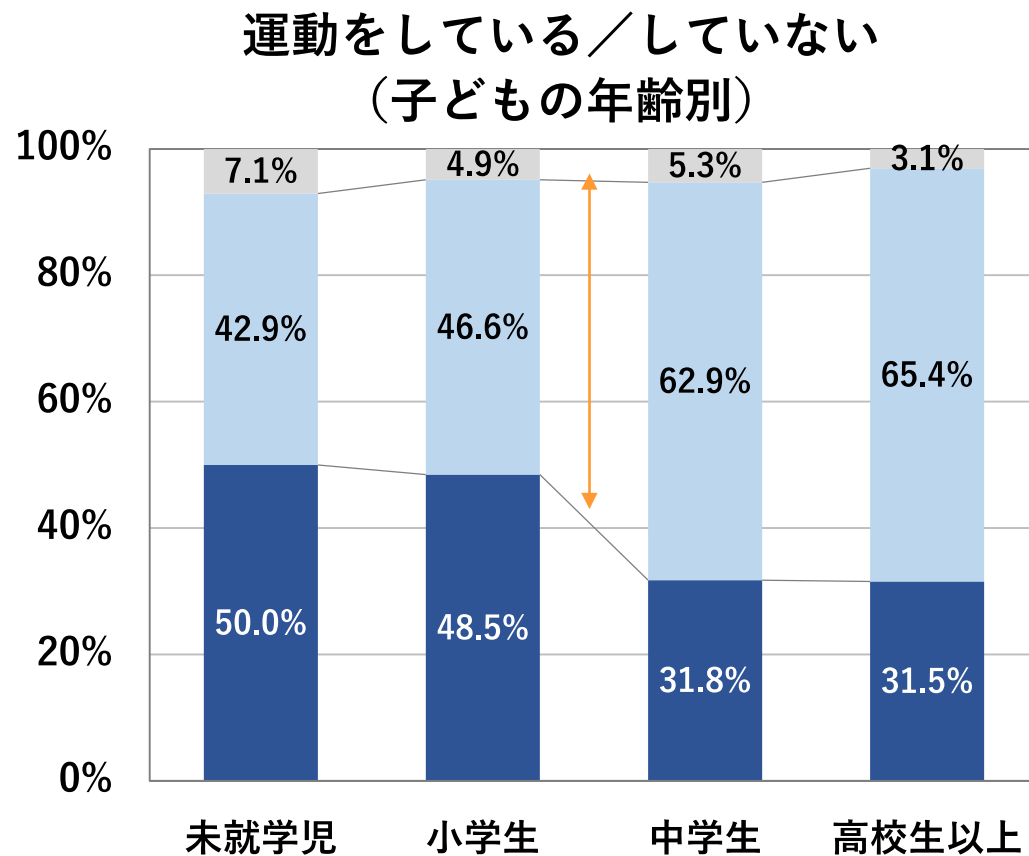


※回答のうち
「学齢期前」を除く

子どもの運動および勉強の状況について

※集計対象：子どもがいる（父母）と回答した人

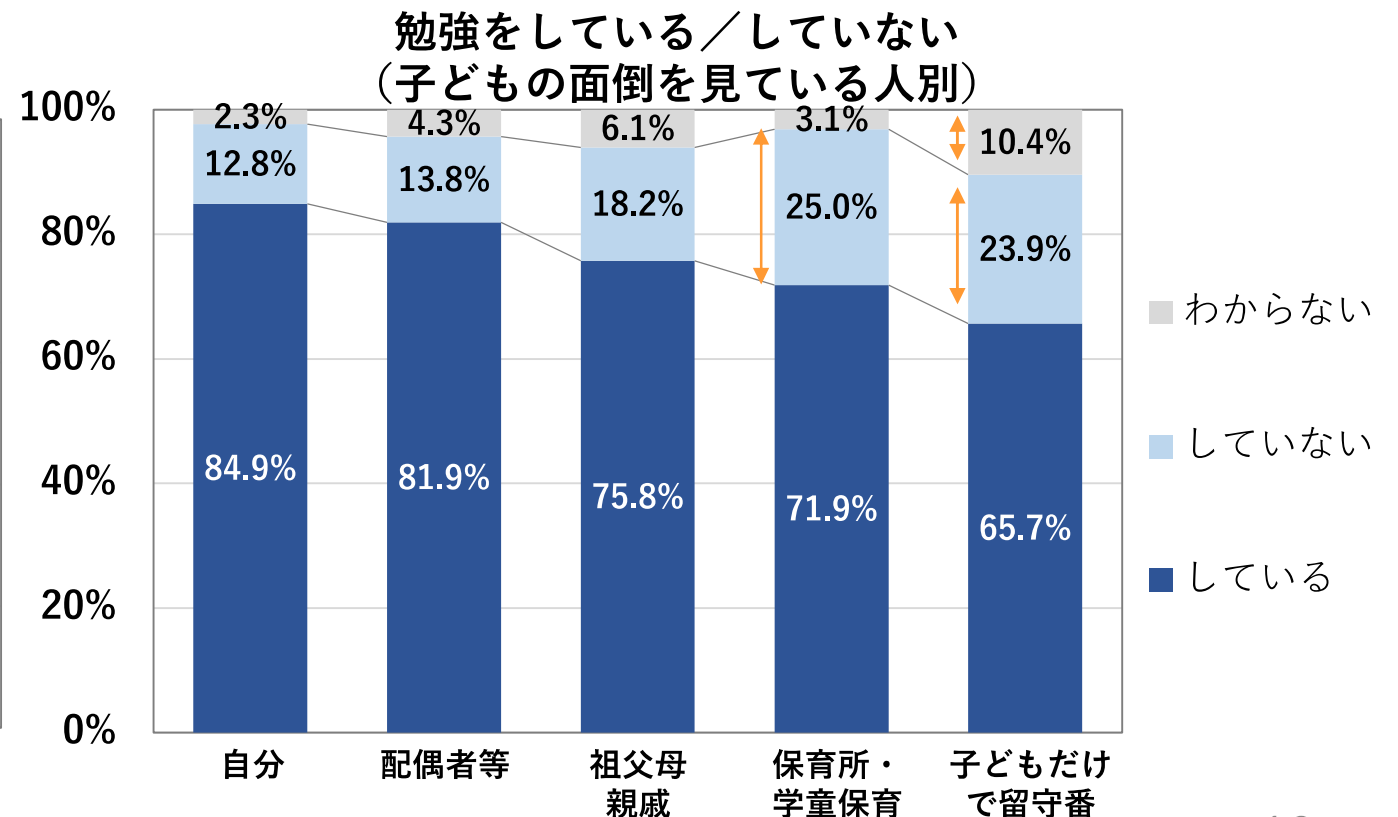
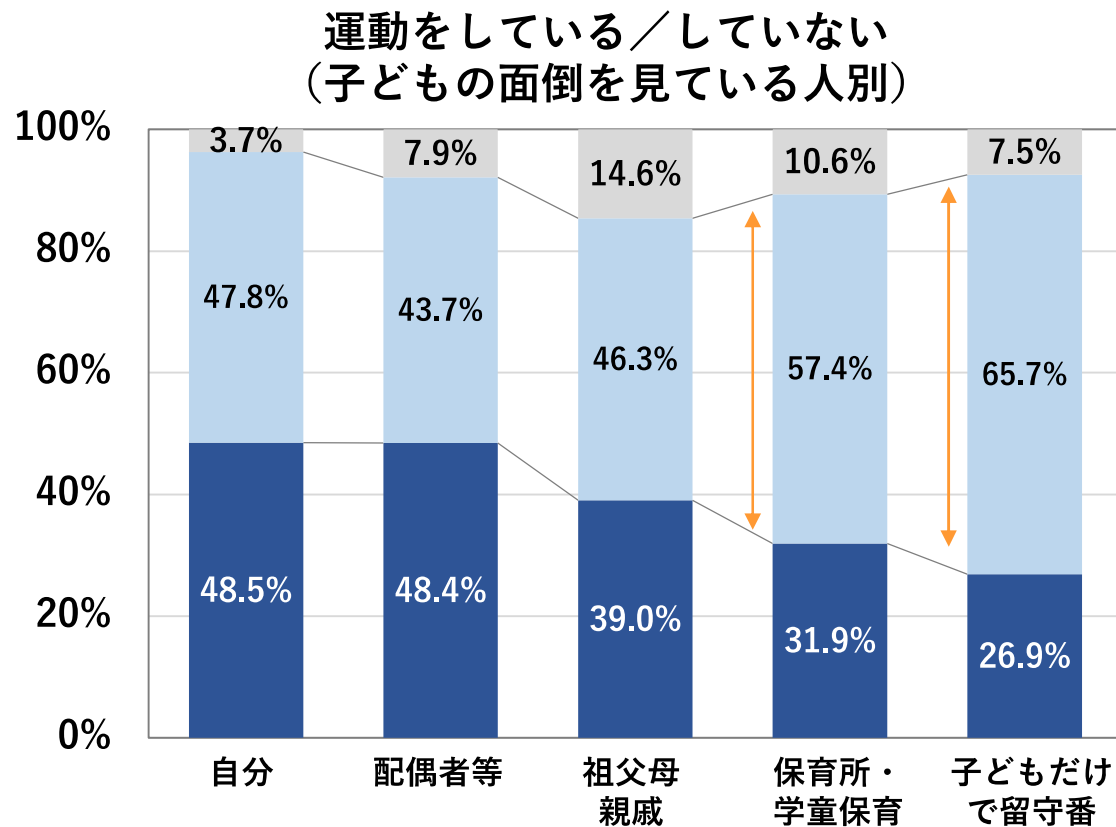
- 運動、勉強ともに子どもの年齢が上がるほど「していない」の割合が高くなり、運動では小学生から中学生で「していない」の割合が16ポイント上昇している



子どもの運動および勉強の状況について

※集計対象：子どもがいる（父母）と回答した人

- 子どもが「保育所・学童保育」「子どもだけで留守番」で過ごしている場合、勉強・運動を「していない」と回答する割合が高く、また「子どもだけで留守番」している場合には、子どもが勉強しているか「わからない」と回答する割合が高い

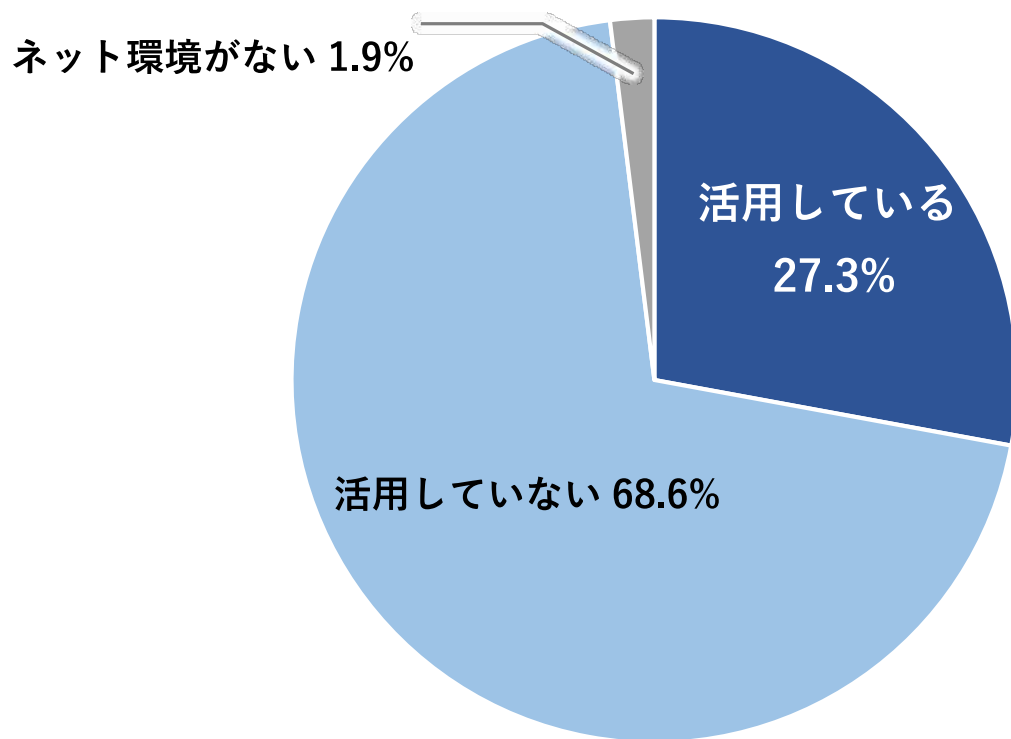


子どもの運動および勉強の状況について

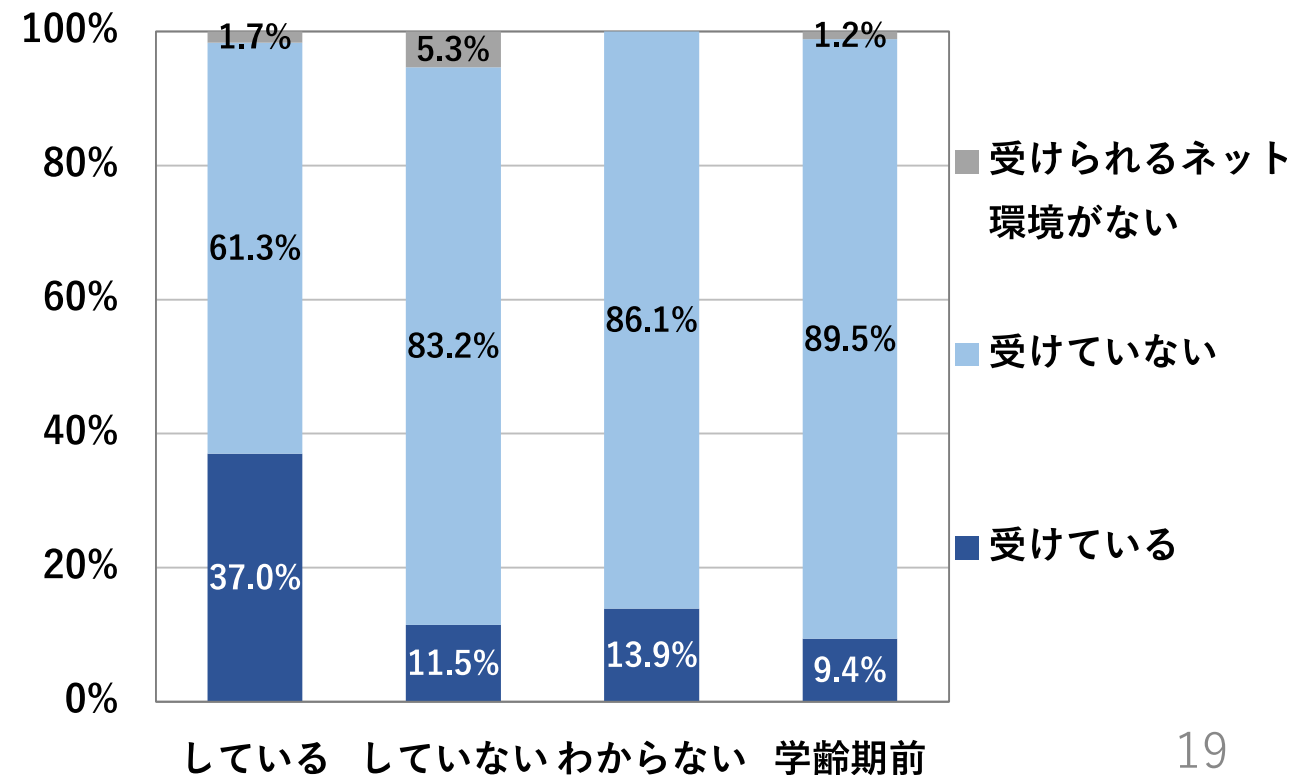
※集計対象：子どもがいる（父母）と回答した人

- 27%がネット上での教育関連サービスを「活用している」と回答
- 勉強を「している」と回答した方の37%が、ネット上での教育関連サービスを「活用している」と回答

ネット上での教育関連のサービスの活用



教育関連のサービスの活用（勉強の取組状況別）



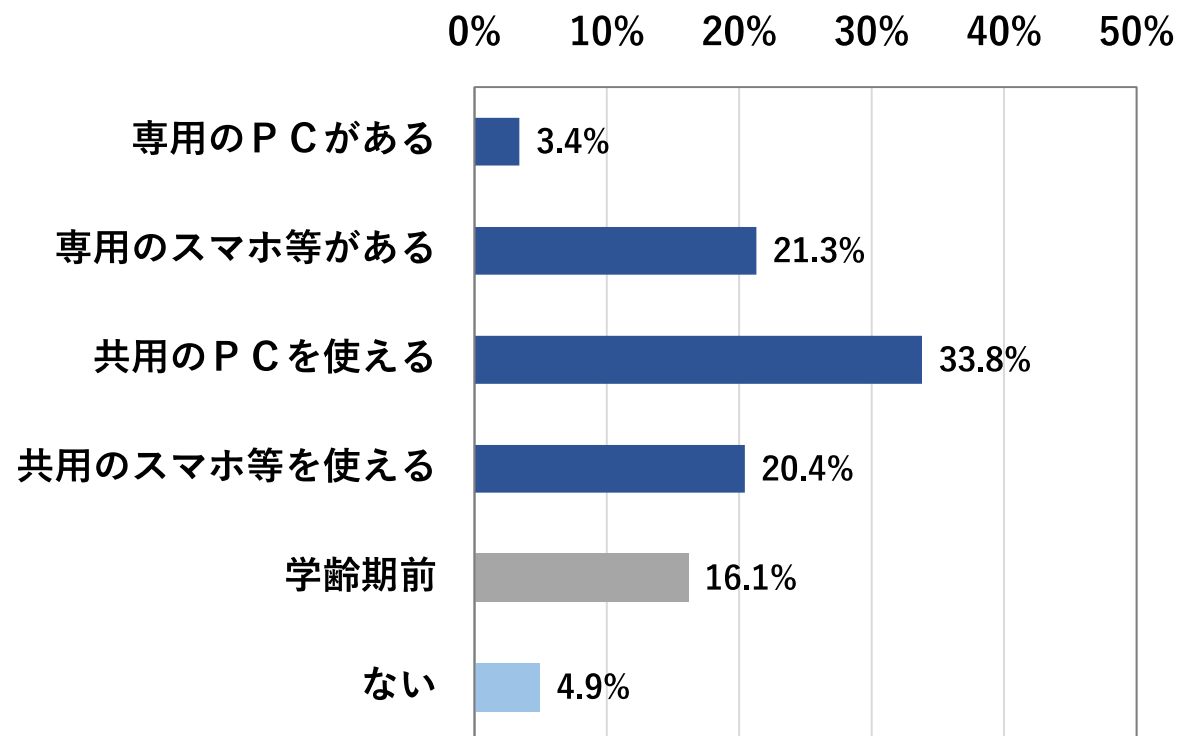
家庭のインターネット環境

※集計対象：子どもがいる（父母）と回答した人

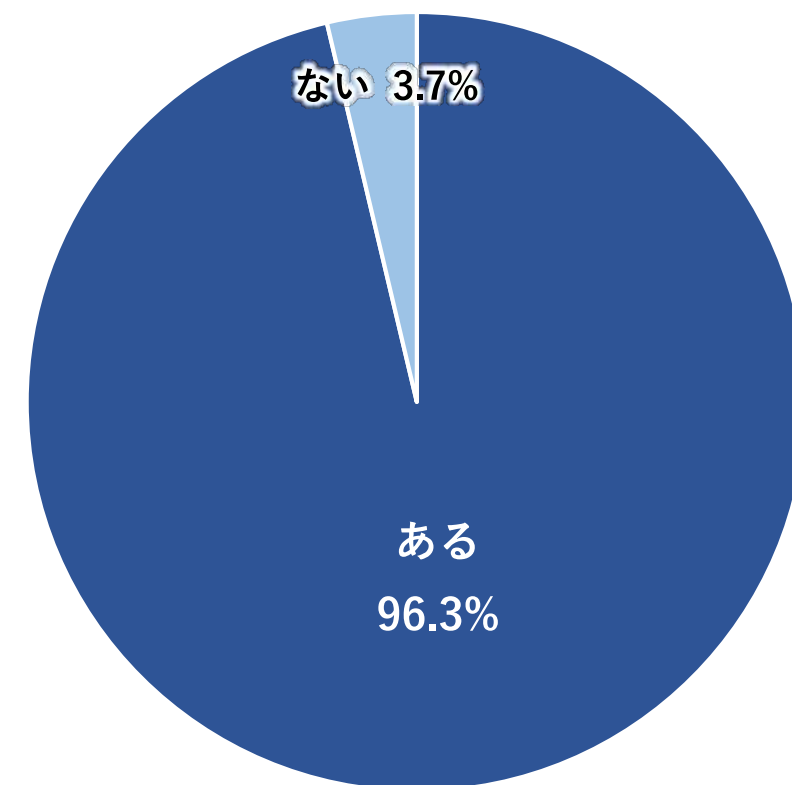
- インターネットを使った授業を受講するにあたり、79%の家庭で必要な端末があり、96%の家庭でネット環境がある

※情報共有アプリ「KOBE ぽすと」を活用したアンケートであることに留意

端末の有無



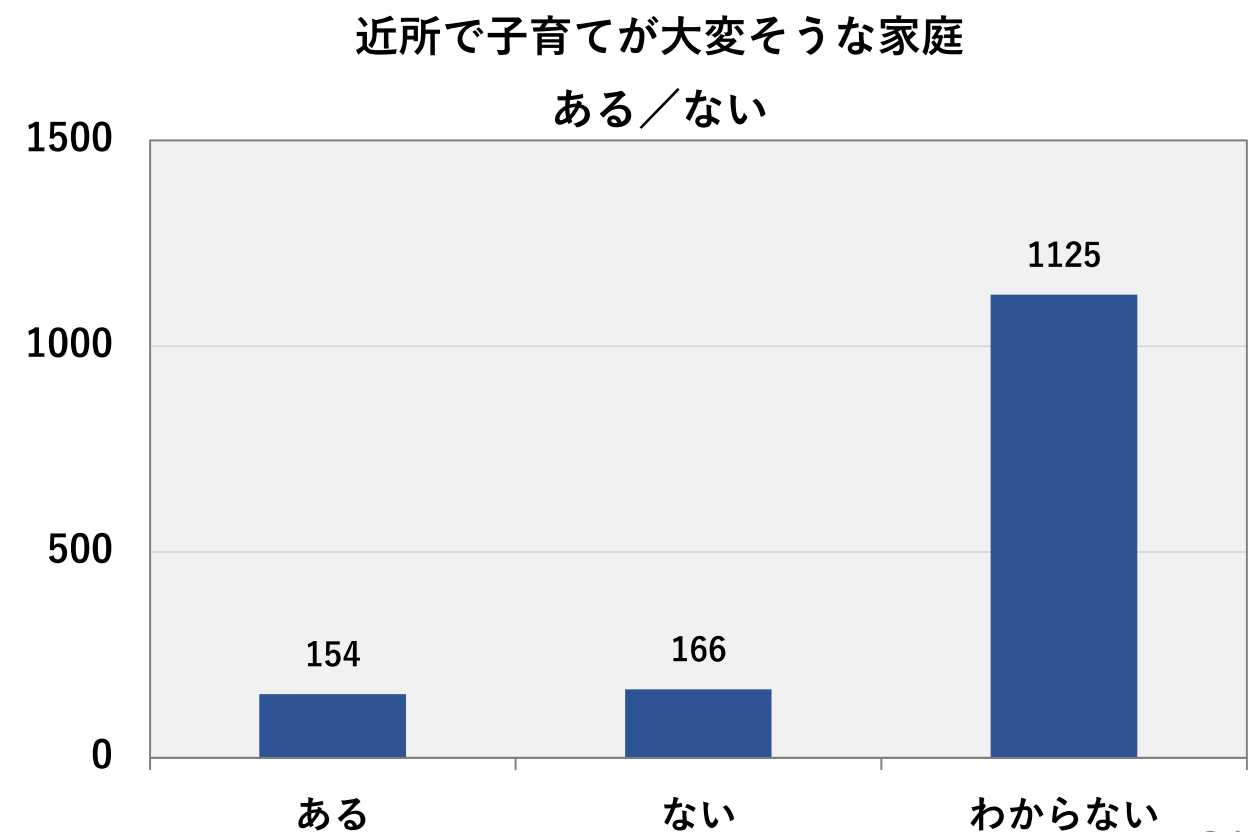
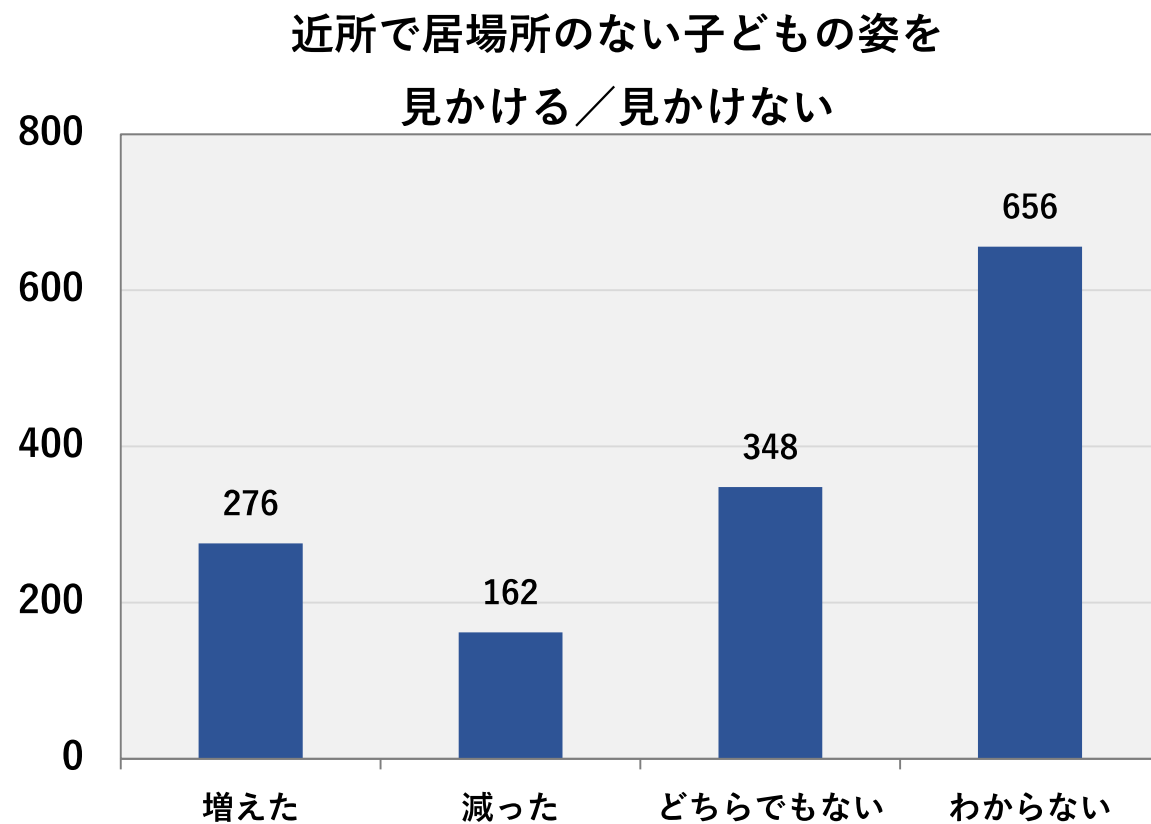
ネット環境の有無



近所の子どもの様子

※集計対象：回答者全員

- それぞれの質問に共通して「分からない」と回答する割合が高い
(子どもの状況が家庭外から見えにくい傾向)

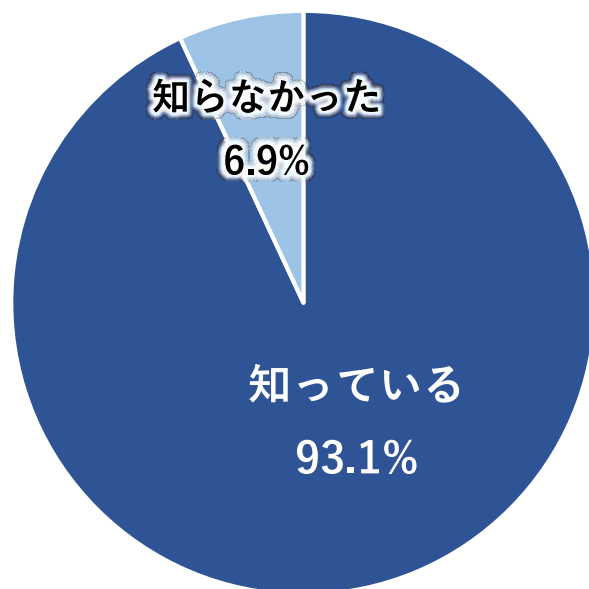


相談・通報先等について

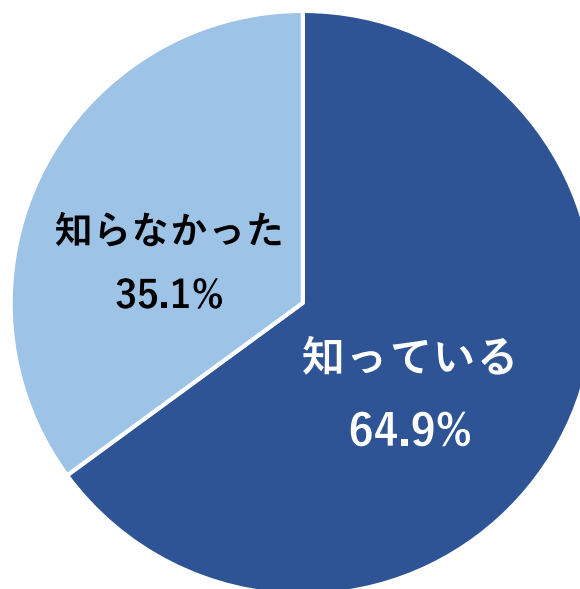
※集計対象：回答者全員

- 3人に1人以上が、虐待の通報が国民の義務であることを「知らない」と回答
- 通報先である「こども家庭センター」の認知度が41%となっている

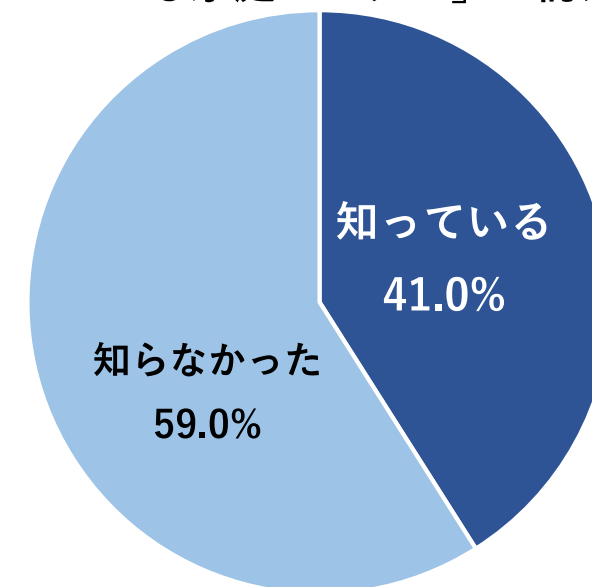
子育てしないことも虐待だと
知っている／知らなかった



虐待の通報が国民の義務と
知っている／知らなかった



気になる子どもに関する通報先
「こども家庭センター」の認知度



まとめ

- 保育所・学童保育を利用していたと回答した方の70%が、休校等の影響により「自分」または「配偶者」が面倒を見ることとなり、さらに、「自分」が子どもの面倒を見ている人の職業を確認すると、「会社員」「公務員」の割合が増加していることから、仕事と子育てを両立している状況が示唆される**
- 幼い子どもがいる家庭ほど「子育て」に関する負担、親子喧嘩が増えた割合が高く、子どもの年齢が上がるほど「精神的」「経済的」負担が増えた割合が高い**
- 子育て相談ダイヤルの認知度が32%と全体的に低く、さらに家族以外で相談できる人が「いない」と回答した方の認知度（26%）のほうが低い**
- 休校等により家でテレビやゲーム、スマホを見て過ごす時間が増えている一方、運動では50%、勉強では14%が「していない」との回答であり、また子どもの年齢が上がるほどその傾向が顕著で体力・学力の格差が生じることが懸念される**